

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 8月 20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401335		
法人名	(有) 藤田企画		
事業所名	グループホーム 佃の里		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町永中名 47-1		
自己評価作成日	平成 23年 8月 20日	評価結果市町受理日	平成 23年 10月 27日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 島原市高島二丁目 7217 島原商工会議所 1階
訪問調査日	平成 23年 10月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「介護」として変に肩にちからを入れるのではなく、ごく自然な形の人間関係を築いていきたい。そのためには、御家族とのコミュニケーションを大切にしている。そして施設で出来ること・出来ない事ははっきり伝えありのままの施設を感じていただくように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

来春で10年目を迎える当ホームは、近隣には、学校・郵便局があり、活気がある中にも、自然に恵まれた環境に立地している。基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりのペースを尊重した、個別性のある支援をしているホームで、利用者は自己主張しながら、第2の我が家で安心して生活されている。また、地元学校との交流、福祉体験の受け入れ等も盛んに行われており、更なるサービスの充実と向上に、期待の持てるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHは家庭であると位置づける。明るい家庭、なじみさんのお隣を目指す。	明るい家庭のようなグループホームで、自分らしく地域の中で暮らし続ける事ができる様に、管理者と職員は理念の共有を図りながら、実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩、近隣の学校との交流などで、地域の中の一員を目指している。	地域の老々介護の自宅へ出向き相談にのったり、徘徊していた入居者を近くの人が連れてきてくださる等、地域との関係を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談を受けられるよう、スタッフで共有している。近隣の認知症の方との交流など行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や、包括の方からの情報、ホームからの情報などを元によりよいサービスにつなげるよう話し合っている。	偶数月に地域包括支援センター、住民代表、家族、利用者の参加の下行われている。報告に留まらず双方向的な会議になるよう配慮されている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事や、相談などすぐに電話などで確認している。聞いた方が、正確でスピーディである。	担当者に相談をしながら連携が図られている。地域包括支援センターと認知症サポーター養成講座の共同開催を計画中である。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関もはき出しの窓も全て解錠している。身体拘束をしない分、工夫しかない。</p>	<p>身体拘束の内容とそのへい害を認識し、自分の嫌な事はしない様に心がけ、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援されている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「無理はケア」はしない。「その場を離れる」を合言葉とし、一人で背負わないことを常に話している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>担当CMや、家族との話し合いの中で、活用できるように支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>特に重要事項説明書については十分に時間をかけ説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>スタッフ全員が、家族の方との接点を持ち、なじみの関係を作り、話がしやすい環境づくりをしている。</p>	<p>365日24時間対応の苦情相談窓口を設置され利用者家族の意見に傾聴の姿勢を示されている。出された意見、要望は全職員で共有後、検討し運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>昼食時間など、いろいろな話をしながら聞くことが多い。</p>	<p>向上心を持って働きやすい職場環境作りに努めている。職員の記録改善の提案を取り入れたり休みは職員で話し合い、勤務に反映されている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>給与水準は決して高くはないか？</p> <p>「処遇改善交付金」でどうにかできるののかなと感じる。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修などへの参加を大いに薦めており、シフトの変更も優先で行っている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者とのネットワーク作り、勉強会への参加を呼びかけているが、なかなか一人では行こうとしない。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>受け入れに対して十分に家族よりの情報をもらうようにしている。包み隠さず、話してもらえるような雰囲気も大切である。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>「どこまでの要望にこたえられるのか」をはっきり相手に伝えることが信頼関係を築く第一歩と考えている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>どこまでやれるかをはっきり伝え、「まず家族が一番」を自覚してもらおうと話をしている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>「共に支えあう」「共に生きる」当ホームの一番の理念である。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>「私たちも家族の一員に加えてもらう」気持ちで接している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>デイサービスよりの面会。家族とのふれあい、食事、外出を大いに薦めている</p>	<p>電話や年賀状による交流に加え、家族の面会が遠のいている場合は、面会をお願いする等関係を継続できるように支援がなされている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う人との語らいや、スタッフとのコミュニケーションを通じてよりよい関係を目指している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も手紙や電話などで、近況の報告を頂いたり、通信を送っている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>コミュニケーションがとれる人は直接希望を聞き取れるが、困難者には筆談などで行っている。</p>	<p>コミュニケーションが十分にできており難聴者についても筆談により図られている。一人ひとりにあった暮らし方の支援を実践している。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族の方からの聞き取りや、ご本人との会話の中より把握につとめている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの体調と相談しながら、過ごし方を決めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>面会の折など、課題の提示を行っている。又、スタッフ間で色々な方法を考えベストと思われる介護を目指している。</p>	<p>申し送りノートに全職員が気づきを記入し、それを基に話し合い、作成に至っている。3ヶ月ごとに見直しを行い、担当者会議を開き、より良いプラン作成に繋げている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>申し送りノートに細かく記入し、共有を図っている</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院、買い物、外出など、家族でできない所をホームで補っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣の学校周辺の掃除や、学校のうさぎへのえさやりなどされている（日曜日）</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>できるだけ、御家族の希望のかかりつけ医での医療を薦めている。</p>	<p>本人が馴染の医師による継続的な医療を受けることができる様に支援されている。受診結果は、申し送りノートで共有が図られている。</p>	

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の体調の変化には、常にスタッフ間での共有と看護師への報告を行い、アドバイスを受けている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関との連携や相談など常に行い、不安なく介護ができる体制作りに努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>御家族の意向を十分に受け入れ、ホームでできる限りの支援に努めている。</p>	<p>他の利用者の影響もふまえ、事業所でできる最大の支援を説明し、方針の共有を図り、家族、医療関係者等と連携を図りながら支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の指導を受けている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震や火災、夜間などの避難訓練を年2回（義務付け）利用者と共にやっている。</p>	<p>スプリンクラーを設置し、マニュアルを作り有事の際の連携を想定した同法人内の3事業所合同の避難訓練が、年2回昼夜を想定し利用者と共に実施されている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重した声かけは見本であるが、時として急ぐ余り声かけが雑になり注意をすることがある。	援助が必要な時は、目立たずさりげない言葉かけや対応をされているが、言葉かけに配慮が足りないこともある。	日常的に言葉かけに配慮をし、お互いに確認と改善に向けたより一層の取り組みに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中より、思いや希望を聞きだしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ寄り添いながらの一日を送れるよう気をつけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方で持って来られる人と、そうでない人がいるが、スタッフ持ち寄りでなんとかしのいでいるところもある。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることでの手伝いは皆がやりたがりスタッフが困るほどである。	昨年の改善点について取組まれて、献立にも改善がみられるが、新鮮な食材を頂ける環境にありながら、職員全員での献立づくりには活かし切れていない。	給食担当者が代わるので、献立名のみならず食材も記入され共有し、献立づくりに活かされる事を期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ソフト食・トロミ食など一人ひとりの状態に合わせている。又、水分量も把握し、できるだけ摂れるもので補うようにしている。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	見守り、介助で行っている。		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	一日中リハビリパンツだった人が夜間のみになったり、普通のパンツにパットになるなど進歩している人がいる。	介護度が高い人が多い中、可能な限りトイレでの排泄を支援されている。おむつやパットの使用は、常に個別の見直しが行われている。	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	野菜を多く取り入れたり、水分量も把握し、極力下剤の服用を抑えられるようにしている。		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	日を決めていても、体調やタイミングがずれるなど入浴できないときは翌日でもいつでも入ってもらっている。	立位等症状に合わせた職員の対応で安心して入浴されている。季節感を取り入れた柚子や菖蒲湯等で工夫をしながら清潔保持に努めている。	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	昼夜逆転しないように気をつけている。		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	一人で何科もかかっている人がおられるなど、情報は常に共有するよう投薬時声を出し確認している。		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>「手伝いはない？」と楽しみにされている。手伝いを何か探すスタッフが大変である。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望をできるだけ早めの実現させてあげられるよう支援している。</p>	<p>年齢・介護度も高くなり、外出の機会が少なくなっているが、病院受診の際などを利用し買い物をするなど、外出の支援が行われている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時には、預かり金より渡している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>外からかかって来るときは、コードレスにて話されている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自分の部屋作りをされている部屋もあり、楽しそうである。</p>	<p>季節の花が飾られ過度な装飾はなく、夏の強い光はよしずつで遮断され落ち着いた雰囲気の中で入居者はゆっくり過ごされている。嫌な音や臭いもない。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれに思い思いの場所できつろがれている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族の人と一緒に作られる。その後は本人が使いやすいようにされている。	仏壇や写真、思い出の品々が持ち込まれ、馴染の物を活かして、その人らしく暮らしている様子が見える。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーであり、各居室にトイレ付きで、プライバシーに配慮し、安全に生活していただくよう努めている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない